



市整会 会報

大阪市立大学整形外科開業医会

No.46 2011年7月11日発行

(医) 頼整形外科クリニック
〒591-8004 堺市北区蔵前町3丁2番8号サンロード1F
TEL072-250-3211 FAX072-250-3222

巻頭言

市整会副会長 鳴嶋 真人 (昭和54年入局)

3月11日に発生した東日本大地震により、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様、また被災地にご家族、ご親族、お知り合いがおられる皆様に心より、お見舞い申し上げます。

今回の大地震は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。我々自らの生きている世に、こんな数百年に一度の大災害を経験するとは、何ということなのか？あの津波の映像を見ての恐怖感と戦慄、地獄絵を見る思いでした。そしてすぐ次は東南海地震が発生するぞ！と、不安と恐怖で今なお落ちつかない日々が続いております。

今回の大地震は、甚大な自然災害だけでなく、福島原発事故の長期化で世界で類を見ない困難に今の日本は直面しています。

工場設備の破損によるサプライチェーンの寸断、電力供給の制約による企業の生産活動の低下、海外市場における“日本ブランド”の低下も懸念されます。また、極端な自粛ムードは景気の本格的な回復がさらに遠のいたことは間違いないでしょう。今はまさに国難というべき状況です。

また、今回は過去にない難しさがあると思います。今まで、日本人は「欧米に追いつき追い越せ」「省エネ・省資源」「円高対応」「エコ」など共通の目標を定めて頑張ると無類の強さを発揮してきました。しかし、今回は「そもそも何をどう頑張ればよいのか、見出しにくい状況」ということなのです。

それは、「人口の減少と高齢化」「グローバル化に対応した日本の姿勢」「巨額の財政赤字」「中央と地方の政治課題」などの問題をかかえながらの

今回の自然災害、原発事故災害です。世界の歴史にも、類を見ない、先例のない、多くの二律背反の命題の解決がせまられています。

日本は先進国の中でも、より進化した問題に直面しているとも言えます。そこでは、利害・意見・哲学が対立し、調整に時間がかかり、なかなか結論が出ない多くの難題に直面すると思います。そこでは感情の高ぶりを抑え、冷静に議論し、何かしら決したあとはしこりを残さないという、日本人があまり得意としないであろう「頑張り」が求められることになると思います。

日本の復興の取り組みは、決して楽なものではないと覚悟しています。しかし、今の民主党、自民党の政治はあまりにも拙政である。日本の団結力、強靱な底力、最先端の技術力をもって日本は必ずやこの難局を克服し、復興が世界の手本となり、飛躍を成し遂げると確信しています。それには、政治的な決断と方向を定めるリーダーが必要です。

この国難に際し、私たちは今の立場と役割の中で自分になが出来るのか、何をすべきなのか自問しながら生き続けたいと思っています。

市整会の皆様と協力し、議論しあい、納得共感しながら、皆様と共に社会に貢献できることを願っております。

市整会は、来年平成24年11月で40周年を迎える予定です。創立当初よりの現役の先生方もたくさんおられます。大変喜ばしく、敬意を表します。

私は、開業13年目ですが、学問として、開業してからは勤務医と同じ整形外科の延長線上にはないと思います。別の学科であるかのように、疾患形態が違うのです。勤務医は手術の適否と、

(2)

工夫を要求されての判断学、治療学でした。開業医ではその疾患が自分で治さなければならない、または紹介しなければ治らない疾患として判断します。見方がかわれば学問としてのとらえ方も違ってきます。保存療法の再構築が必要となり、患者のニーズにゆきとどいた対応が必須となります。従って市整会の学術講演会の演題名も、より身近な問題点を取り上げて学術担当の先生方にお世話になりながら検索しております。

たとえばMRIは、整形外科医に診断学に革命をもたらしました。それだけ、診断学が複雑化したことを意味します。リウマチ学も進歩し、開業医がどこまで対応すべきか問われています。

少子高齢化で、外来の疾病構成が変化し社会的背景が変化している中で、いかに医学的に対応しながら、福祉問題、介護問題にいかにかかわっていくべきかが問われています。

整形外科開業医は、運動器リハビリ、在宅、介護、通所リハビリへと変貌を求められています。

市整会は、今年度、新入会員の先生を4名お迎えしております。明石健一先生、妻鹿良平先生、竜江哲培先生、木村浩朗先生です。新入会の先生方の医業の発展、ご活躍を心より祈念しております。また、市整会々員より先生方への応援、協力をいかようにでもさせていただきます。市整会に二代目、若先生を迎えられることができ、また、すでにご活躍の先生方も多数おられます。現在、大学関連開業医会として、全国でも類をみない200名もの会員を誇れること、諸先輩の苦勞と歴史を感じずにはいられません。

多数の会員間のコミュニケーション手段として、IT委員会は頼功会長、阪本邦雄先生の指導のもと、総務担当の斧出安弘先生を始め、森川献志漢先生、小竹志郎先生らが中心となって立ち上げられ、現在、益々充実しつつあります。しかしながら私を始め十分に使いこなせず、本来の楽しみ方、

利便性を享受していないのが現状です。これからも、新メンバーを加え、IT講習会なども企画しながら、是非一人でも多くの先生方との親交を深めるツールとなることを期待しております。

福利厚生では、楯憲一先生、安田浩成先生を中心に、市整会々員の家族、子供さん、お孫さんを含めた家族参加型会合として、face to faceの型でさらに親交を深めております。

家族会は、前年度はNHK大河ドラマの「龍馬伝」ゆかりの地での観光で43名の多数の参加で、会員家族相互の団欒を楽しみ、また日常より脱出した、気分転換の充実した一日旅をしました。

このほか、文化講演、新年会、ゴルフコンペとご家族一緒に参加して頂くための楽しい行事がたくさんあります。

市整会では、整形外科医というアイデンティティと、プライドを共有して、全会員の資質向上と会員相互間の協調と、親睦扶助を目的に活動しております。

日常診療の医療技術、資質の向上を目指し、また、日常の喧騒、煩雑、不平からの脱却を目ざし、耳学問、相談、愚痴、本音が楽しく行き交う会でありたいと願っています。

学術担当としては至らないところが多々あるかと思いますが、市整会そして会員の皆様の資質向上、少しでも益となるように一同頑張っ活動して行きたいと思っています。

資質向上には、大学教室との連携、研究会活動への参加、勤務医、医局の先生方との親交も大変重要です。

市整会々員の皆様方には、各学術講演会や家族会への参加をはじめ、今後の市整会活動への御参加、御支援、御指導、御鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

また、市整会々員、御家族の皆様のごからの益々の発達とご多幸を心より祈念しております。

＝ 東日本大震災によせて

市整会会長 頼 功（昭和49年入局）

平成23年3月11日は平成7年1月17日と並んで、あるいはそれ以上に忘れられない日になりました。何百年に一度といわれる未曾有の東日本大震災（マグニチュード9.0）が勃発し、多くの方々が亡くなられ、甚大な被害を受けられました。心よりお悔やみを申し上げますと共に御見舞い申し上げます。

多数の家屋、建物の倒壊、火災事故、さらには想定外ともいわれる10数mとも20mを越す津波による大惨事、テレビ画面に映し出された映像に思わず息を呑みました。海から押し寄せる津波が次々と町の家々、集落を飲み込んでいく凄まじい様が映し出され、これまでに観た映画のCG効果で作られた映像が今、まさに現実として映し出されていて、この世のものとは思えない光景でした。いかに優れた知恵や英知を持った人間でも何もすることができない、人の力の無力さと凄まじい自然の力を改めて思い知らされました。

その後の被災者の苦難は言うに及ばず、立て続けに発生する余震の中での救援の困難さ、復旧の遅延、人災とも言える福島原発事故、停電、食材などの生活物資の不足など周辺地域の混乱振りを皆さんはご存知のことと思います。

しかし、多くの犠牲者を生み、経済・社会活動にも大きな損失をもたらした大震災、被災地の厳

しい環境の中でも大きな暴動や略奪も無く、きちんと行列を作って並び、少ない食事を分け合う姿、首都圏で停電のため帰宅難民になった人々の整然とした振る舞いなど、危機的状況下に人々が見せた日本人の美徳に世界中が驚嘆の声を上げています。いち早く多くのボランティアの人々が活動してくれています。国の対応の遅れ、さらに人災ともいうべき福島原発事故における東京電力と国の責任逃れ、うその吐き通しには全く腹立たしく思いますが、驚くほど広範囲に多くの人々が多くのやり方で、被災された方々を応援し励まそうと支援の輪が広がっています。今更ながら人々の繋がり、慈愛、友愛そして思いやりがいかに大切かを再認識いたしました。

これから復興に向けて、5年、10年、それ以上の年月が必要になっていくでしょう。メディアから震災の話題がいずれ消えていくでしょう。しかし、その陰には多くの被災者たちの長く厳しい茨の道が続いていることを忘れてはなりません。私たちは被災者のために何かできることは無いかを常に心に留めておくべきで、しかも行動に移していかなければならないと考えます。被災地の一日も早い復興と被災者の心休まる平安を心よりお祈り申し上げます。



— 東日本大震災

南平 克積 (昭和46年入局)

平成23年3月11日の東日本大震災は地震と津波と原子力発電所の崩壊により深刻な国難となっている。全国民、国家がその克服に献身しなければならぬのは言うまでもないが、現在の復興の方法に疑問点が多い。堤防、港湾、船、鉄道、道路、住宅、ライフ・ラインなどの復旧は一億三千万の国民が東北五県を応援すれば必ずなると確信する。

深刻なのは放射線被害である。原子炉はいまだに制御出来ないでいるし、濡れ出した放射線は被害を拡大させている。チェルノブイリをはじめとする多くの事故を経験しながらこれほど無知、無検討な原子力発電所の危機対策かと驚くばかりである。きわめて高いものについている。自然災害だけでなく、たとえば、テロやミサイルで原子力発電所が狙われたらもはや現在の原子力対策では日本は破滅しかない。燃料棒の放射能放出をただちに停止する方法を発明するまで原子力発電は人類滅亡と隣り合わせの危険な存在と思われる。せめて、原子炉の破壊が明白になった数時間後に廃炉にする決断と決死隊を投入して冷却設備の復旧ならびに再構築をして冷却・安定を取り戻せなかったのではあるか？報道は政府や東電の嘘や国民に理解できない汚染水の処理方法や工程表、土壌や農・漁業産物の汚染、浪花節調の気の毒な被災者のケースなどを連日とりあげ、不安や風評被害や自粛ムードを煽っている。国難に際して、昔からもっとも危険な任務に国民の肉親である兵士や特攻隊を用いてきた。今は、一人の犠牲者も許してはいけないと報道は煽る。人命は地球より重し、という福田赳夫元総理ののたまった理屈である。当然、最大の科学的叡智を結集し、ことにあたりそれでも被害が生じれば国家をあげて保障すると

いうことさえ非難しては国や国民全体が滅亡してゆくのを座視しているだけのえせ人権主義である。アメリカの海兵隊もロシアのKGBもイスラム圏の聖戦士も非人権的な存在である。日本の自衛隊は一人でも死んではならない軍隊である。世界の中で上位1パーセントに入る豊かな暮らしを享受し、その継続を願いながら、日本は民主主義を超越して一人ひとりの人命が国家より重要という理想の世界をめざして、傲慢にこのような対処をしている。かならず、近いうちに日本は没落し、侵略され、豊かさはおろか人命も蹂躪されると懸念される。

震災発生10日後、ドイツの友人から日本が危険であるならドイツにおいて、暮らすに十分な家があるからと手紙を貰った。ドイツでは日本はもはや住むことのできない、崩壊した国と報道されたのであろうか？日本が第二次大戦で600万人失い、立派に復興した、3万人死んでも必ず近いうちに復興する、大部分の地域は大きな影響もなく暮らしていると返事を書いた。日本の株価も円も震災前とほとんど変わっていないということは、本当は世界から日本はどのように評価されているということであろうか？省エネを徹底しながらも、活発な経済活動をして、必ず被災地に届く枠組みの中で少々高めのものを買って、服や帽子や家や持ち物に誇りを持ってワッペンでも貼って応援の表示とし、日本は一つという誇りをもって被災地が復興するまでこれを継続していかなければならないと考えている。

平成23年度 市整会総会

平成23年4月09日 16時より
天王寺都ホテル 5階「高取の間」

1、学術講演

『椎体骨折後の疼痛治療におけるエルシトニンの役割』 旭化成ファーマ(株) 学術部 鶴澤 豊暢様

2、総会

議長 前野岳敏先生

黙祷 ご逝去されました4名の先生方に対して

奥野博敏先生 上原昭夫先生 明石武彦先生 松尾澄正先生

1、会長挨拶 頼 功先生

2、報告事項

- (1) 本日の出席者数と委任状数 総会の成立について(斧出)
- (2) 昨年の会員動向について 会員数200名 名誉会員 新入会員(斧出)
- (3) 平成22年度事業報告(斧出)
- (4) 平成22年度会計報告(柳井)
- (5) 平成22年度決算報告に対する監査報告(寺川)
- (6) その他

3、審議事項

- (1) 平成23年度事業計画案(斧出)
- (2) 平成23年度予算案(柳井)
- (3) 新理事承認の件(頼)
- (4) 定款の変更について(頼)
- (5) その他

3、特別講演

座長 鳴嶋真人先生

『BMP(骨形成蛋白)と β -TCPを用いた脊椎固定術—ウサギを用いた実験的研究』

大阪市立大学 整形外科 堂園 将先生

報告事項

1、会員の動向について

・平成22年度の総会以降の入退会者名(新規開業、廃業・死亡退会者)

・名誉会員表彰

廣田龍二先生 昭和15年4月28日生まれ

山藤修輔先生 昭和15年7月24日生まれ

片上義嗣先生 昭和15年9月4日生まれ

金川雅洋先生 昭和16年2月1日生まれ

・死亡退会者(4名)

奥野博敏先生 平成22年7月17日ご逝去(死亡退会)

上原昭夫先生 平成22年7月24日ご逝去(死亡退会)

明石武彦先生 平成23年2月6日ご逝去(死亡退会)

松尾澄正先生 平成23年3月19日ご逝去(死亡退会)

(6)

・退会者（7名）

前田 勉先生、植松有庭先生、荒木良守先生、越川 亮先生、坂部賢治先生、茶之木頼彦先生、広谷高志先生

・御廃業（1名）

石上 直先生（自宅会員）

・新入会（4名）

明石健一先生 明石整形外科クリニック

〒584-0073 大阪府富田林市寺池台1-14-25 Tel/Fax 0721-28-3123

妻鹿良平先生 (医)妻鹿整形外科

〒577-0004 東大阪市稲田新町2-30-13 Tel 06-6745-4143 Fax 06-6746-1730

竜江哲培先生 たつえクリニック 整形外科・リハビリテーション科

医療機関所在地 〒532-0012 大阪市淀川区木川東2-2-2 Tel・FAX 06-4400-2360

木村浩朗先生 整形外科ひろクリニック（5月9日開業）

〒547-0047 大阪市平野区平野元町10-35 NAYビル1階

Tel 06-6794-2468 Fax 06-6794-2467

現在の会員数200名

2、平成22年度事業報告

H.22.04.17.(土) 総会 天王寺都ホテル（旭化成ファーマ）（参加44名）

特別講演Ⅰ 座長 鳴嶋真人先生

『GFPRラットとWild-Typeラット間移植による異所性骨形成再生メカニズムの解析』

講師 大阪市立総合医療センター 矢野公一先生

特別講演Ⅱ 座長 阪本邦雄先生

『柔道整復師の何が問題なのか？ほんとに悪いのか？』

講師 オサダ整形外科 長田 明先生

H.22.06.12.(土) 市整会学術講演会天王寺都ホテル（田辺三菱製薬）

（参加129名 市整会会員100名 非会員29名）

学術講演1「ビデオで見る神経疾患」 北野病院神経内科 松本禎之先生 座長 宮内 晃先生

学術講演2「RAにおける生物学的製剤による治療：より有効に、より安全に使うには」

大阪南医療センター 臨床研究部 部長 佐伯行彦先生 座長 鳴嶋真人先生

学術講演3「整形外科診療とロコモティブシンドローム」 座長 頼 功先生

東京大学大学院 整形外科学 教授 中村耕三先生

H.22.07. 市整会会誌発行

H.22.07.25.(日) スケルトンゴルフコンペ オークモントゴルフクラブ

（参加 市整会10名 勤務医5名 計15名）

H.22.09.25.(土) 理事会 大東洋（参加理事26名 委任状29通）（帝人）

H.22.10.31.(日) 家族会（参加 会員20名、家族23名 計43名）

行程：難波集合8:30===9:30京都伏見（月桂冠大倉記念館、寺田屋）

寺田屋浜乗船場11:35~三十石船~寺田屋浜乗船場12:20===

昼食 老舗料亭 京大和

幕末維新ミュージアム（霊山歴史館）===難波解散17:30~18:00頃

H.22.11.13.(土) 学術文化講演会 スカイトワー梅田（日本臓器）

（参加 会員57名 家族15名 非会員16名 計88名）

【総司会】 市整会副会長 鳴嶋 真人 先生

製品紹介「ノイロトロピンの最近の知見」日本臓器製薬(株)大阪支店学術担当

第1部 学術講演(16:15) 座長 古瀬 洋一 先生

「整形外科領域における神経ブロックー合併症とその対応についてー」

東京クリニック 院長順天堂大学 名誉教授 宮崎 東洋 先生

第2部 文化講演(17:30) 座長 斧出 安弘 先生

「諦めなければ夢はかなうー陸上競技人生20年の軌跡ー」

大阪ガス株式会社・北京オリンピック400mリレー銅メダリスト 朝原 宣治 氏

H.22.12.12. 第19会市整会ゴルフコンペ 泉ヶ丘カントリークラブ(参加30名)

H.23.01. 市整会会誌発行

H.23.01.15.(土) 新年会 ANAクラウンプラザホテル(エーザイ)

演題名『脊椎外科この10年の歩み』

講師 大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学教授 中村 博亮 先生

H.23.01.29. 市大同門会

H.23.03.12. 理事会 阪急ターミナルスクエア17 (参加19名 委任状34通) (久光製薬)

H.23.03.26.(土) 市整会学術講演会 リーガロイヤルホテル大阪

(参加140名 会員62名 市大同門会20名 その他58名) (小野薬品)

学術講演 I 腰部脊柱管狭窄症の病態と治療

大阪市立大学大学院医学研究科整形外科講師 寺井秀富先生

学術講演 II 整形外科領域におけるMRI読影のコツ

慈恵医大附属病院放射線学科教授 福田 國彦先生

3、平成23年度事業計画

H.23.04.09.(土) 総会 天王寺都ホテル (旭化成ファーマ)

特別講演 I 座長 鳴嶋真人先生

『BMP(骨形成蛋白)と β -TCPを用いた脊椎固定術ーウサギを用いた実験的研究ー』

講師 大阪市立大学 整形外科 堂園 将先生

H.23.06.18.(土) 市整会学術講演 ヒルトン大阪 (田辺三菱製薬)

学術講演 I

演題:「整形外科に於ける生物学的製剤の使用経験ーレミケード早期導入が必要なのか?ー」

講師:広島クリニック 久米健介先生

学術講演 II

テーマ:「交通事故診療上の注意点ー外傷性脊椎周辺症状を含めてー」

講師:医)慶仁会 やました整形外科 山下仁司先生

(JCOA自賠労災委員会 委員長)

学術講演 III

演題:「ストレス解消とFighting Spirit」 講師:日本医科大学名誉教授 吉野慎一先生

病院紹介 十三市民病院 石切生喜病院

H.23.07. 市整会会誌発行

H.23.07.24.(日) スケルトンゴルフコンペ 花吉野カンツリー倶楽部

H.23.08.06.(土) 市整会学術講演会 ホテルモントレ グラスミア大阪(ヤンセンファーマ株)

学術講演 I 講師 サトウ病院 古瀬洋一先生

演題 「未定」

学術講演 II 講師 順天堂大学医学部附属順天堂医院 井関雅子先生

演題 「未定」

H.23.09.(土) 理事会 日程・場所は未定(帝人)

H.23.10.下旬(日) 家族会 場所・日時は未定

(8)

(候補は、伊勢、淡路島、福井、長浜等あるが、広報を通じて、先生方のご意見を頂戴する。)

H.23.11.05.(土) 学術文化講演会 場所と、学術講演会の演者は未定(日本臓器)

文化講演には、バドミントンの小椋久美子さん

H.23.12.11. 第20回市整会ゴルフコンペ 泉ヶ丘カントリークラブ 8組エントリー

H.24.01. 市整会会誌発行

H.24.01.(土) 新年会 ANAクラウンプラザホテル(エーザイ)

演題名『未定』 講師 大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学教授 中村 博亮 先生

H.24.01. 市大同門会

H.24.03.(土) 市整会学術講演会 (小野薬品)

講師 演題名とも未定

協議事項

1、定款の変更について

- ・会費、退会に関して定款に載せる事項

『第3章 会員および会費』第4条について

追加・協議事項

第4条

- 3、会員は、別に定める会費を納入しなければならない。会費は総会において決めるものとする。

※原則として、廃業されている会員は年会費を免除する。また、ご子息が医院を継承し、会員ご自身は医師会で言う、いわゆるB会員として勤務されている場合、年会費を半額免除する。但し、上記の会員より年会費納入の申し出のある場合、その限りでない。

*これを、下記に変更すること

- (1) 閉院後、市整会の残留の意志のある会員は、会費の半額を納入する。ただし、名誉会員(70歳以上)が、閉院する場合は、会費免除とし、そのまま名籍を残す。これは、その後の市整会活動への参加を制限するものではない。但し、上記の会員より年会費納入の申し出のある場合、その限りでない。
- (2) 継承の場合は、先代会員は、会費免除、後継した市整会会員は、会費全額を納入する。

2、新理事推薦の件

調子和則先生 (IT委員会)

湊 康行先生 (福利厚生)

桑野吉浩先生 (広報)

妻鹿良平先生 (広報)

高尾泰広先生 (広報)

田中直史先生 (福利厚生・ゴルフ)

(平成23年度 市整会役員(案)は、別紙)

3、40周年の準備について

平成24年11月に、市整会の40周年を迎える。40周年の記念行事の準備委員会を本年の、秋に立ち上げることにする。

平成23年度 市整会役員

会 長	頼 功 (49)
副 会 長	楯 憲一郎 (52) 阪本 邦雄 (53) 鳴嶋 真人 (54)
会 計	柳井 尚浩 (57)
名誉会長	伊藤 成幸 (25) ・松尾 澄正 (28) ・吉中 正好 (36) ・長田 明 (38) 榎本 高明 (39) ・南平 克積 (46)
顧 問	宮内 貴 (31) ・上田 晏弘 (37) ・吉川 秀明 (39) ・黒田 晃司 (46)
議 長	前野 岳敏 (41)
副 議 長	南平 克積 (46)
監 事	寺川 文彦 (57) ・黒田 晃司 (46)
理 事	有馬 英之 (28) ・松井 善邦 (31) ・妻鹿 利和 (31) ・吉田 洋 (31) 反田 英之 (33) ・江口 亨 (36) ・石崎 嘉昭 (37) ・若林 亘 (38) 中野 博友 (39) ・三明 靖昌 (39) ・畠中 正昭 (40) ・奥田 好彦 (44) 越宗 正晃 (44) ・近藤 正樹 (46) ・楠 正敬 (48) ・林 正樹 (51) 吉田研二郎 (51) ・西上 茂樹 (54) ・増田 宗義 (54) ・呉家 守二 (54) 飯田伊佐男 (54) ・和田 健志 (54) ・安田 浩成 (54) ・中村 薫 (55) 宮脇 裕二 (55) ・斧出 安弘 (56) ・天野 裕一 (57) ・増田 博 (57) 馬野 隆信 (58) ・柴田 和弥 (59) ・阪本 博史 (59) ・古瀬 洋一 (60) 黒澤 克也 (60) ・宮内 晃 (60) ・山下 豊 (61) ・西澤 徹 (62) 伊藤 智康 (63) ・豊川 英樹 (H1) ・小堀 肇彦 (H2) ・木下 裕介 (H7) 森川献志漢 (H8) ・小竹 志郎 (H11)
新 理 事	調子 和則 (61) ・湊 康行 (H2) ・桑野 吉浩 (H4) ・田中 直史 (56) 妻鹿 良平 (H12) ・高尾 泰広 (H13)
市 整 会 役 員 職 務 分 掌	
副会長 (楯 憲一郎)	福利厚生担当理事 ○安田 浩成・△増田 宗義・△豊川 英樹・中村 薫・和田 健志 湊 康行・木下 裕介・田中 直史
副会長 (鳴嶋 真人)	学術担当理事 ○宮内 晃・△小竹 志郎・西上 茂樹・古瀬 洋一・飯田伊佐男 健保・労災担当理事 ○天野 裕一・△伊藤 智康・坂本 和彦・馬野 隆信
副会長 (阪本 邦雄)	広報担当理事 ○宮脇 裕二・△木下 裕介・西澤 徹・小堀 肇彦・黒澤 克也 山下 豊・桑野 吉浩・妻鹿 良平・高尾 泰広
総務担当理事	○斧出 安弘・△森川献志漢・阪本 博史・増田 博
(IT委員会)	○森川献志漢・△小竹 志郎・阪本 邦雄・宮脇 裕二・天野 裕一 調子 和則・豊川 英樹・木下 裕介・伊藤 智康
顧問	斧出 安弘・柳井尚浩)
諮問委員	頼・楯・阪本邦・鳴嶋・柳井・安田・宮内晃・天野・宮脇・榎本・南平・黒田・森川 ・斧出

家族会のお知らせ

〜〜鳴門うずしおウォッチングツアー〜〜

日時：平成23年10月30日（日）

今年の家族会は少し遠出して、世界的にも珍しい自然現象である、鳴門海峡のうずしおを見に行こうと考えています。明石海峡大橋を渡り、淡路島を縦断して、大鳴門橋を渡って鳴門まで行きます。鳴門では大型うずしお観潮船で鳴門海峡まで行き、目の前でうずしおを体験することができます。自然がひき起こす現象を楽しんでいただきたいと思っております。船は大きいので、それほど揺れることはありませんので、安心して乗船してください。

また鳴門には大塚国際美術館という、陶板名画美術館があります。古代から現代にいたる西洋名画1,000余点が展示されており、見ごたえがあるとのこと。

昼食は鳴門パークヒルズ内の「古今青柳」という料亭で、淡路・鳴門の海産物や野菜などの食材を用いたおいしい料理を味わっていただきます。

なお詳細は9月に入れば、改めてご案内をさせていただきます。

皆様どうぞご家族そろって、家族会を楽しんでください。

（福利厚生担当 安田浩成）

くるま道楽

阪本 博史 (昭和59年入局)

市整会の先生方で、車好きの方は多々おられると思いますが、車好きにもいろいろあるようで、速いのが好き、ゴージャスなのが好き、古いのが好き、一車種のみ乗りつないでいる、などさまざまだと思います。

私も子供のころからの車好きで、「趣味」と問われれば即「くるま」と答えるくらいの「車好き」です。ただの「車好き」から、道楽の域に達するよう、そろそろ磨きをかけようとしている今日この頃です。

まず、昨今の車スタイルのなんとつまらないこと、どうでしょう。歩行者安全上の配慮からとかいう理由で、全て、角のとれた、丸っこいずんぐりした「マークX」みたいな形になってしまっています。日本では、もはやこの形でしか製造許可がおりないようです。まだ、海外はましなようで、比較的個性を残したデザインの車がつくられているようです。でも、モリスミニやフィアット500、ワーゲンビートルのようにふたまわりほどおおきくして、不細工になった車も多くみられ、残念です。

【ノスタルジックヒーロー】

常識的にいえば、「スカイライン2000GT：通称、箱スカ」でしょう。

しかし、記念すべき「くるま道楽」の第1回のノスタルジックヒーローには、「いすゞベレットGT」を挙げたいと思います。

いすゞベレットGT

いすゞから昭和39年に発売された、1600ccクーペで、初物づくしのGTカーです。(1)GTをネーミングに用いた最初のクーペ (2)ディスクブレーキを初めて前輪に装備 (3)四輪独立懸架 (4)ラックアンドピニオン式ステアリング等々。初期は、直4、1600ccSUツインキャブ仕様。なかでも、typeRは、スカイライン(箱スカ)登場以前はサーキットを席卷したくるまで、1600ccDOHC(後の

117クーペに繋がるエンジンです)、車重970kg、90ps、最高速度190km/h。当時の1600クラスでは最高レベルのくるまで、「和製アルファロメオ」と呼ばれていました。オレンジボディーに艶消し黒のボンネットは、精悍でした。いまでは、ほとんど見かけなくなってしまいましたが、40年前のくるまでですから、そんなもんでしょう。思い出していただくために、最近凝っている「ジオラマ」で1/43のベレGをあわせて昭和中期の修理工場を再現してみました。オレンジボデーではなく、白なのがちょっと残念ですが、当時の「ベレG」を思い出してみてください。

【今回お薦めのくるま】

トヨタクラウンとかレクサスとかを挙げればあたりまえで、くるま道楽としては「芸」がないので、今回は、ベンツE350ブルーテックをお奨めします。

ベンツE350ブルーテック

「なあんや、ベンツのEかいな。」と思われるかたは素人さんです。簡単に言いますと、このくるまは、「Eシリーズの3000ccV6ディーゼルターボ」です。ドイツでは、ベンツの乗用車の60%はディーゼルで、ヨーロッパでは、エコの視点から「ディーゼルみなおし」の風が吹いています。ベンツに限らず、プジョーや、フィアットもディーゼルエンジンにシフトしています。BMWですらディーゼルエンジンをもっているんですよ。

私も、今のEのひとつ前のE320CDIを1年乗っていますが、それまでのディーゼル車の印象とはかけ離れていて、「目から鱗が取れた」気がしました。

(1) 静か (2) 振動が無い (3) 速い (4) 排ガスがきれい (5) 燃費がいい (6) 軽油は安い (7) エコ対象車

特に、加速感がガソリンのEシリーズに比べびっくりするくらい優れています。

元々、Eシリーズはどの大きさのエンジンもだるいフィーリングで（E250は除く）、安定感はあるが、あまりきびきびした乗り心地ではありません。しかしこのディーゼルエンジンはターボの効きがすばらしく、他のEシリーズとは一味違っていています。155馬力ですが、同じ3000ccのガソリン車では、6000回転で200馬力なのに、このエンジンは3400回転で155馬力です。また、燃費がすごくいい。街乗りで10km/Lは裕に走ります。さらに、軽油です。

いいところばかりではなく、「いまいち」などころもあります。

800万もするくるまのわりには、カーナビが古い。ベンツはすべてそうですが、今どきのカーナビの二世代くらい前の性能、操作性のものがついてきます。これには、がっかりさせられますが、最新式のカーナビに換えるには20万もかかるとなれば、ここは我慢でしょう。また、今のモデルから変更となった、「パドルシフト」。これがまた使いにくい。今まで、ベンツはステアリングの左に1本しかレバーがなく、ウインカーとウインドウウォッシャーを間違えることはありませんでした。

しかし今のEはレバーが2本で右側がパドルシフトなので、ウインカーと間違えて、シフトを変えてしまうことがあります。このレバーは停車時にしか動かないようになっていますが、発進直前に触ってしまうと、ギアが変わってしまいます。これは、慣れるまでちょっと時間がかかります。特に、国産車と両方乗っておられる方には要注意です。折角センターコンソールからシフトレバーを無くしたのなら、ベンチシートにでもしてくれたら良かったのと思いませんか？

もし、「ベンツを買おうかな」とお考えの先生がおられましたら、御一報ください。〇〇万円さらにまけてくれる営業マンをご紹介します。

最後に、私は本当は何の「くるま道楽」かといいますと、1/43ミニカーコレクターです。小学生のころから集め始めてそろそろ1200台を超えようとしています。最近、ジオラマ製作にもはまっております。ミニカーとの組み合わせを楽しんでいます。子供みたいで、ピーターパン症候群の阪本です。



アジア杯、ACLから世界へ！！

木下 裕介（平成7年入局）

この度の東日本大震災で被害を受けられた地域の皆さまへは謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。

今年1月の行なわれたアジアカップは、素晴らしい優勝だったと思います。グループリーグで中東諸国を退け、決勝トーナメントでは準決勝で韓国をPK戦で下し、決勝ではオーストラリアを延長後半の李忠成選手のゴールで競り勝ちました。大会中松井選手、香川選手の負傷離脱、GK川島選手の退場などあった中での優勝なので素晴らしい一言につきると思います。この優勝によりコンフェデレーションズカップ（以後コンフェデ杯）の出場権を獲得できた事も重要な事だと思います。コンフェデ杯とは、その歴史はともかくとして、今ではW杯のプレ大会として、W杯の1年前にW杯開催国で開催されている大会で、それぞれの大陸で行なわれている大陸別選手権（アジア杯、欧州選手権、南米選手権など）の優勝国6カ国と招待国2カ国の合計8カ国で開催されている大会です。コンフェデ杯では、W杯本番のある程度のシュミレーションができ、また勝敗にこだわらず若手の起用、新しいシステムのテスト等種々の思い切ったチャレンジも出来るためスキルアップするのに非常に良い大会となっています。W杯アジア予選を勝ち抜きW杯のための実りあるコンフェデ杯になるように期待したいと思います。

さてこの度の大地震で多くのスポーツが、中止や延期になりました。その中でACL（AFCチャンピオンズリーグ）は、ほぼ予定通り開催されています。ACLとはアジアサッカー連盟（AFC）が主催するアジアのクラブチームによる大会で優勝するとFIFAクラブワールドカップへの出場権が与えられます。

世界の多くの国々には、日本のJリーグに相当するサッカーリーグが存在します。当然アジアの国々にも存在し、それぞれの国で成績上位であっ

たクラブチームがACLの出場権を獲得します。2009年から32チームで戦っており日本の出場枠は4枠で、J1の1位から3位のチーム（今年度は名古屋、G大阪、C大阪）と天皇杯の優勝チーム（鹿島）が出場できます。出場する32カ国を中東中心の西地区と日本、韓国、中国、オーストラリア中心の東地区の2つに分け、その上で8つのグループに分け、ホーム&アウェーで試合を行い上位2カ国（合計16カ国）が決勝トーナメントに進みます。決勝トーナメント1回戦（ベスト16）はグループリーグ各組1位チームのホームでの一発勝負、準々決勝から東西を混合して行なわれ準々決勝と準決勝はホーム&アウェー方式で、決勝は中立地での一発勝負で行なわれます。日本の4チームすべてグループリーグを勝ち抜き、決勝トーナメントに進出したのですが、準々決勝に勝ち上がったのは、C大阪のみです。9月に準々決勝が行なわれます。C大阪には是非勝ち上がってもらいたいものです。

ACLも決勝トーナメントまで勝ち上がってくると、欧州のクラブチームから注目されてくると思われます。特に最近、本田、長友、内田、香川などの日本選手が、結果を出してきているので注目度は上がっているはずですが、まだ日本代表にも呼ばれた事のない20歳前後の選手が、こういった大会で注目を浴び、欧州に移籍し、世界で通用する選手に成長する。こういう時代がすぐそこまで来ているような気がしてなりません。日本サッカーの質の高さを世界に強烈にアピールするためにも、C大阪には勝ち上がってもらいたいものです。

インターネットラジオ

宮脇 裕二 (昭和55年入局)

インターネットラジオをご存知でしょうか？その昔はFM放送をBGMとしてあるいはエアチェックソースとして聴いてこられたと思います。その頃にはレシーバーと称するアンプとFMチューナーが一緒になった製品も売られておりました。FM放送も今も続いていますが、音質的には圧倒的にインターネットラジオが優れています。

ではインターネットラジオをどうすれば聴けるでしょうか。一番簡単なのはインターネットに接続されたパソコン、例えばMacなら付属のソフトのiTuneから聴くことができます。また無線LANの環境下ではiPod touchでも聴くことができます。診療所のパソコンでインターネットラジオに接続して待合室のスピーカから流せば、BGMをしかも毎日違う曲、ジャンルのものを患者さんに提供できます。しかも普通のラジオと違って多くの場合アナウンスがありません。曲名はパソコン側に掲示されますので、鳴っている間はわかります。さらに、オーディオセットで聴くともう少し高音質なプログラムを提供しているネットラジオ局があります。ビットレートという数字があります。これは、どのくらいの音質で音声を配信するか、録音する場合のファイルサイズに影響する数字で、つまり数字が大きくなるほどより高音質になり、かつ保存したときのファイル容量が大きくなるということです。iTuneで聴くのは大体32から64kbps位のもので、128kbpsくらいになるとCD並みの音質になります。中には320kbpsとCDより遥かに高音質なものもあります。

それでは話をより具体

的に進めて参りましょう。私がよく聴くインターネット局をご紹介します。括弧内はビットレートの数字です。JAZZではPsychoMed(192), Linn Jazz(320)クラシックではLinn Classical(320), Organ Live(192), Pro FM Classic(224)などがあります。いずれも高音質なプログラムの提供ですが、インターネット環境によっては320kbpsのものなどでは再生が止まる場合があります。

次にどのような機材で高品位なプログラムを聞くかという点です。オーディオ製品ですので上を見たらとてつもなく高いものもあるのですが、妥当なところで私の使っているのがマランツ、ネットワークオーディオプレーヤー「NA7004」です。これはその他にもいろいろな機能がありますが、その話は今回は止めておいて、とにかく形が普通のアンプなので、オーディオラックに入れても全く違和感がありません。これ以外には同じくマランツからスピーカー直接につなげられるネットワークCDレシーバーM-CR603が出ております。Denonからも同様のレシーバーRCD-N7が発売されており、こちらは無線LANで使用可能です。以上諸先生方のオーディオライフの何か参考にいただければと今回も書かせていただきました。





編集後記

今回の未曾有の大災害、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

ちょうど16年前に、私たちは阪神大震災を経験いたしました。その関係で今回の大震災はともて他人事とは思えません。ただ地震被害に加えて津波、原子力発電所事故に伴う放射能汚染など複雑かつ範囲があまりに広範囲に及ぶ点など相違点がありますが、被災された方の早期の自立、復興を望む気持ちには変わりはないと思います。阪神で

助けていただいた恩を今こそ返すときだと思います。

鳴嶋副会長の巻頭言に加え、会長にも震災に寄せるお気持ちをお書きいただきました。また南平先生からも震災に関するご投稿をいただきました。ただ会報もあまり震災一色になってはいけないと思い、総会、会計報告の後にはいつもの楽しい話題を掲載しております。

(広報：宮脇裕二)